

「未開拓」との出会いのために ～外国語の学習を通して～

山口大学教育学部附属山口小学校 教諭 寺内 健

1 はじめに

子どもたちが将来、「見たこともない物や景色」「食べたことのない食べ物」「話したことのない人々」のような、自分にとっての“未開拓”に出会うために欠かせないツールとなるのが、外国語である。子どもたちが、目標を達成したり、何かを成し遂げたりする経験を外国語の授業の中で積み重ねていくことはできないだろうか。そうすることで、将来、外国語をツールとして、“未開拓”に自ら足を踏み入れ、自分の住む世界を広げていこうとする子どもを育むことにつながると考えた。そこで、2つのポイントで授業づくりを進めた。

① 子どもと共に単元を創る

英語を学ぶことが目的ではなく、英語を使って何をしたいのかを、子どもと教師で共有していくことで、子どもの思いを大切にしたい、主体的な外国語の授業づくりが可能になると考えた。

② 子ども同士で、振り返りを共有する

単元の終末に、学習のプロセスを振り返ることで、外国語を通じてやってみたいことがさらに増えたり、課題を一つ一つ解決してきた自分に自信がもつことができたりすると考えた。

単元： 「Cool Yamaguchi! ～おすすめの場所を紹介しよう～」

本単元では、総合的な学習の時間の課題の解決方法の一つとして、英語を学習してきた。扱うのは、『We can!2』Unit2「Welcome to Japan.」とUnit4「I like my town.」である。まずは、「今まで学習してきた英語を使ってみよう」と教師から子どもに投げかけ、外国の方と交流してみることにスタートした。山口大学の留学生との交流（1回目）からもった思いと教師の想定のもと、子どもは学習を展開していった。以下、2つのポイントで学習の実際を述べる。



「好きな日本の文化」を伝え合う子ども

2 学習の実際

① 子どもと共に単元を創る ここからは、学習の過程を、見取った子どもの思いで示し、紹介する。
(※太い下線が外国語活動。「Eさん」：3回の交流で関わってきた外国の方。)

1 子どもに外国の方々との交流会をすることを知る

留学生と交流するのか。自分たちがしている遊びや日本の文化を紹介できるよう英語を学習しよう。

2 日本の文化を紹介する表現を学習する 【4時間】

「『We can!2』Unit2「Welcome to Japan.」で、食べ物や遊び、それらについての感想を伝える語彙や表現を学習するのだね。「I have○○. It's～」で、紹介できそうだよ。交流会では習ってきた英語を使ってみよう。でも、上手に使えるかな。

3 山口大学の留学生や国際交流員の方々と交流会をする

日本の文化であるお手玉や、自分たちがよく遊んでいるコマのおもちゃで、一緒に遊んで楽しかったよ。「I have ○○. It's ~.」を使って会話ができたよ。Eさんは、山口市のいいところをもっと知りたいのか。次の交流では、山口市のよさを紹介したいな。

4 山口市のおすすめスポットの紹介の仕方を話し合う

山口市のいいところを紹介するのだったら、自分たちがいいと思ったところを紹介したいな。学校から歩いて行ける名所はいくつかあるね。一の坂川はどうか。たくさんのお店や公園もあるし、歩いたら日本の雰囲気を感じられるよ。でも、自分たちがよさををもっと知らないで紹介できないな。実際に行ってみよう。



川に入ったり動画を撮影したりする子どもたち

5 一の坂川に行って、よさを感じる

川の水が気持ちいいね。いろいろな種類のラムネ、アイス、コロッケなど美味しそうなものが売っているお店があるよ。噴水で水遊びできる公園もあるね。この場所を教室で紹介するより、一緒に来られたら、Eさんにその場で、よさを紹介できるね。Eさんの思い出にも残ると思うよ。持ってきたタブレットで写真や動画を撮ろう。この中からどこに行きたいか選んでもらおう。



一の坂川にあるお店を見て回る子どもたち

6 一の坂川のよさを紹介する英語を学ぶ 【5時間】

Eさんに興味をもってもらえるように、がんばるよ。

「We have Ichinosakagawa. You can enjoy eating 醤油 icecream. It's delicious.」よし、練習できたよ。紹介するのが楽しみだな。どうやって紹介すればよいだろう。練習した英語を、この動画を見せるときに使えば、よりよさが伝わると思うよ。練習してみるよ。できた！動画や写真に合わせて英語を言えばより伝わりやすいよ。Eさんは何に興味をもってくれるかな。



場所に合わせて表現を考えるK児

7 Eさんに一の坂川のよさを紹介する

「We have Ichinosakagawa. You can enjoy eating 醤油 icecream. It's delicious. You can drink ラムネ. It's sweet and delicious.」練習通り、写真や動画を見せながら伝えられたよ。いくつか紹介した中で、Eさんは、「I want to drink ラムネ.」と言っているよ。何種類もあるラムネに興味をもってくれたね。次はアイスとラムネが売っている醤油屋さんでEさんを連れていきたいな。うまく通じ合えたところもあるけれど、Eさんは、私たちがリアクションを返しても英語が通じているかどうか不安なのか。もっと安心してもらうためには、違うリアクションの仕方があるのかな。場面を想像しながら、使える英語を増やすといいかもしれないよ。



Eさんに紹介するK児のグループ

8 3回目の交流 ※ 猛暑で校外学習ができず、急遽中止に

山口市の他の場所の紹介や、まだやっていない日本の遊びをしよう。あとは、外国の遊びも一緒にやってみたいから、一緒にしよう。Eさんも一の坂川に行けなくて残念がっているね。でも、室内でできることで楽しめたからよかったね。前回よりも英語が聞き取れたし、質問もできたりしたよ。



3回目の交流をするK児のグループ

9 学習を振り返る

最初は、外国の人と交流するのが、不安だったけれど、英語をみんなで練習して言えるようになったね。練習した英語が通じてすごく嬉しかったよ。いろいろな遊びを考えたり、話したいことが英語で言うとか何て言うのか調べたりするのが楽しかったね。Eさんはすごく優しくて、2回目の交流からは名前を覚えてくれていてうれしかったよ。3回目は、「会いたかったよ」と言ってくれたので嬉しかったね。また、Eさんと交流をしたいな。

このように、「一の坂川の魅力を伝えるにはどうしたらよいか」「Eさんに楽しんでもらうためには何が必要か」という総合的な学習の時間の課題の解決方法の一つとして英語を学習してきた。子どもの思いに寄り添い子どもと共に創る単元構成が、子どもが主体的に外国語を学ぶことにつながったのである。

② 子ども同士で振り返りを共有すること

K児が書いた振り返りを左下、それに対する、他の子どもが発言した思いを右下の口の中に示す。K児の振り返りを単元の終末に全体へ紹介し、K児がもった思いを共有した。その際、子どもたちには、「Kさんのいいところはどこ？」と投げかけた。そうすると、子どもたちは、①～⑤までの文章に着目し、自分の思いとK児の振り返りとを比べて、改めて思いをもった。



仲間と振り返りをするK児

① 私が頑張ったのは、英語を聞き取ることにした理由はノートに書いた
nを口に出すのは出来るけど、ハマさんが話す言葉は知らない言葉が多
かったから②。最初、「I missed you」と言われても、初めて聞いた言
葉だから。ハマさんの日本語にたよってしまいました。でも、意味を知れて
良かった。ハマさんがろう思ってくれて、良かった。その後おりがみ
をすることになった。③。クラスの人もみんなおりがみ紙を同様にし、分かりやすくしたり、
単語を使ったりしました。でも、ときどき分からないことを、日本語で話している
と、ハマさんが紙にどう言うかを書いてくれて、それを私達にくり返して、
話しました。なので前よりも、英語を話す回数が増えました。

④ その後、紹介をするときに、ところどころ、発音が分からなかったけど、
ノートをハマさんに見せると理解してくれたので、良かったです。⑤。次
からは、英語でも説明して、伝わるようにしたいです。ふり返りの前に、ハ
マさんの日本語の覚え方、まかけをおおえてくれました。
これは、日本語のアメを見ることで覚えよう。

⑤ みんな、自分の好きなアメを英語バージョン
見てみてくれたよと言っていたので、やってみよう
です。
一生懸命、聞いていましたわ！
分からないところがあって当然です。
でも、みんな、一生懸命聞いてくれて、良かったです。おかげで、英語が
もっと楽しくなりました。

- ①「目標をもってKさんは取り組んでいてすごいです」「私も目標をもって学習したいです」
- ②「会いたかったよと言ってくれるくらい楽しい交流ができたことがわかりました」「ぼくも、3回の交流をしてどんな人なのかわかりました」
- ③「調べた英語を、折紙をしながら、使っている工夫がすごいと思いました」「英語を使う回数が増えたのは、ハマさんに教えてもらった英語をKさんが一生懸命使おうとしたからだと思います」
- ④「英語の発音の仕方が分からない時には、文字を見せることも有効なのだと思いました」「私も、英語が分からない時には、ジェスチャーをしたり絵を描いたりして伝えられました」
- ⑤「次にしたいことを決めていてすごいと思いました」「もっと英語を使いたいと私も思います」「自分の好きなことで英語の勉強ができるなんて初めて知りました。やってみたいです」

このように、①～⑤のK児の思いを他の子どもが自分の思いと比べ、共感したり自分にはない思いに気付いたりしたのである。K児は、①～⑤のような思いをもったといえる。

- ①目標をもって学習したこと
- ②人と人とが英語を通してつながることができた喜びを感じていること
- ③④伝えたいという思いをもとに、伝える方法を試行錯誤しながら活動していること
- ⑤さらに学習に対する意欲を高めていること

このような、振り返りを共有する場では、①～⑤のような思いをもったK児だけでなく、K児の思いのよさに気付けた子どもたちも価値付けることができた。振り返りの価値付け方法は、「教師が」コメントを書いて返すことや、振り返りのどの部分がよいのかを、「教師が」他の子どもたちへ紹介することなどが考えられる。しかし、ここで大切にしたいのが、「子ども同士で」価値付け合うことである。一人の感想をもとに、外国語を学ぶよさについて子ども同士で共有していくことで、仲間の思いと自分の思いとを比べ、新たな考えが生まれたり、素直に仲間のよさに気づき、互いを認め合える人間関係を作ったりすることにつながると考えている。



英語を使って学校を案内する子どもたち

3 おわりに

外国語の学習に、これから求められるのは、英語を上手に話せたり、相手が話すことを正確に聞き取ったりすることだけではなく、子どもが将来、目の前の問題を自分なりに解決をして、自己実現できる人間をいかに育てていくかであると考え。そのためには、外国語の学習を通じて、自分のがんばりや思いが実を結ぶ、成就感をもつ経験をさせたい。そのような経験を何度も積み重ねることが、将来、目の前の問題の解決の見通しや自信をもつことにつながるのではないかと考える。

そこで大切にしたいのが、教師による、子ども一人一人の成長の見取り、価値付け、子どもと共に、互いの成長の喜び共有することである。些細なことではあるかもしれないが、これらを丁寧に行う大切さは、他教科、領域の学習と同じである。これからも、外国語の学習を通じて、子ども一人一人の成長を喜びつつ、研究を重ねていきたい。これらの研究が、子どもたちの“未開拓”に出会える瞬間につながることを信じて。



3回の交流を終えた子どもたち